

もくじ

- P1 研修会実施報告
 P2～3 環境活動団体報告（北浦自然観察会、山口県自然観察指導員協議会、錦川流域ネット交流会、渋川を良くする会）
 P4 ご存知ですか？「いきものログ」

支援員研修会の開催結果

<第1回研修会>

◇日時：平成25年10月14日（月・祝） 9：30～15：30

◇場所：きらら交流館、竜王山周辺（山陽小野田市）

◇参加者：22名

◇内容

午前中は、本山会の嶋田紀和氏による「竜王山周辺の自然について」の講義を行い、午後は、嶋田氏の解説で竜王山周辺の山野草やアサギマダラの観察会を行いました。

- 講義では、竜王山の自然の特徴は、海岸性植物と山地性の植物が混在しており、山野草の種類と群落が多いこと。また、秋吉台のように人の手が入っている二次的自然であること。昆虫では、日本固有の個体数であるヒメボタルや県下最大の飛来数の旅する蝶〈アサギマダラ〉が見られ、アサギマダラが好む3種類の花を増やす取組（アサギマダラおいでませ作戦）を地元の本山小学校等と実施しており、今年で4年目であることなどの説明がありました。

- 自然観察会では、まず市の天然記念物第1号になった「ハマセンダン」（木の周囲が5.2mの大木）を観察した後、竜王山に移動し、代表的な山野草を公園内を山頂に向かって歩きながら観察しました。山地性植物のアマナ、ヒトリシズカ、オドリコソウ、ウバユリ、ワレモコウ、ヒヨドリバナ、モリアザミや海岸性植物のコバノタツナミ、ルリハコベ、植物群落のコバノタツナミ、ウマノアシガタなどを観察しました。

また、公園中腹に植栽してあるヒヨドリバナにアサギマダラが数十匹集まっており、参加者は手に取ったりしてゆっくり観察することができました。



<第2回研修会>

◇日時：平成25年11月9日（土） 9：30～16：00

◇場所：ふれあいパーク大原湖、滑山国有林（山口市徳地）

◇参加者：27名

◇内容

午前中は、樹木医の中村裕三氏による「樹木について」の講義や山口森林管理事務所の市野氏と堂園氏による「滑山国有林について」の説明がありました。午後は、森林インストラクターの橋本順子氏と金丸恵子氏の解説で滑山国有林のブナ林やアカマツなどの樹木の観察会を行いました。

- 講義では、まず、中村氏より樹木医の制度や樹木の樹勢回復治療などについて説明があり、次に、葉の特質による広葉樹や針葉樹などの樹木の見分け方や、元気のない樹木の見分け方、森林セラピー、何故紅葉するのかなどについて、



説明がありました。次に山口森林管理事務所より、滑山国有林の概要やアカマツ、ブナ、コナラ、アカシゲ等の樹林や滑マツ（赤松）、「滑の三本杉」等について説明がありました。

- 自然観察会では、飯ヶ岳登山口駐車場に行く途中にある「滑の三本杉」（樹齢300年以上で直径1.5mの杉が3本）を観察し、駐車場からは登山道に沿ってブナやアカマツなどの樹木を説明を聞きながら観察しました。また、ブナとイヌブナの見分け方、カエデ、コナラ、ミズナラやキノコ（分解者）を中心とした森や冬虫夏草などについて説明を聞きながら観察しました。

江舟岳のホンシャクナゲ群生地のその後

北浦自然観察会 永井 要明

北浦自然観察会は、平成21年度に県民協働型自然共生手づくり事業で、萩市川上の江舟岳のホンシャクナゲ群生地の整備を行いました。8月末から11月まで4回に渡り延べ約50人を動員して、ホンシャクナゲ以外のアカガシ、ソヨゴ、シキミ等の常緑樹やコナラ、カエデ、リョウブなどの落葉樹を伐採しました。皆伐ではなく、4割くらいを残す間伐です。整備の効果はすぐには出ず、翌年にはまだ花がほとんど咲かなかったので観察会は見送りました。2年後の23年5月に同地でホンシャクナゲの観察会を行いました。参加者は全部で約90人で、翌年は110人でした。そして、昨年（25年）は花が僅かしか咲かない年でしたので、観察会は中止しました。観察会の参加者は地元の方々が大部分で、途中、切り籠切り窓のホンシャクナゲやセッコクを望遠鏡で見て、キンラン、キエビネ、エビネ、ニシノヤマクワガタ、ナンゴウウラシマソウ、コケイラン等を見た後、山頂でホンシャクナゲの花を見ながら食事をしました。観察会とは別に山陽側の山口市・防府市から来るグループも多く、ホンシャクナゲの群生地の整備をしてから、江舟岳も登山家にとってかなり人気の山になったようです。24年には、群生地の日照が21年に伐採した時よりも悪くなったので、再度の整備（ホンシャクナゲ以外の雑木の伐採）を10月21日に12人で行い、25年4月13日にも5人で整備した結果、現在は21年の最初の整備の時よりも日照が良くなっています。今年は蕾も多いので、沢山の花が咲くと思われますので、5月10日（土）、11日（日）17日（土）、18日（日）の4日間、観察会を行う予定です。また、萩市立川上中学校も参加する予定で、にぎやかになりそうです。



蓋井島ヒゼンマユミ保全活動 ～若木も育っています～

山口県自然観察指導員協議会

第5（下関）支部長 植田 高弘

平成20年度に自然共生手づくり事業により、蓋井島で始まったヒゼンマユミ周辺の保全活動は今年で満6年になります。県内や下関市内の会員有志及び会員の知人の方々、大体5名前後で現在までヒゼンマユミ周辺の環境を整備する活動を続けてきました。

始めの3～4年間は試行錯誤の繰り返しで、伐採した竹を横にして積み上げていくことや竹に足を取られたり、竹を踏んだりしないようある程度竹を伸ばしておくこと等を皆で習得しました。また、作業効率を考慮すれば、宿泊して2日間活動した方が良いのではないかと考え宿泊して活動してみましたが、2日目は疲労が残る、やはり前日と同じように作業に打ち込むことはできず、一日完結の方が作業効率が良い結果となりました。このように年月が経過し、竹の伐採活動にも慣れてきて、会員から「ヒゼンマユミの若木（幼樹）の調査をしてみても」という建設的な意見も出ており、今後は、保全活動はもちろんですが、ヒゼンマユミの木々の分布状況を調査してみたいと考えていますので、興味を持たれる方はご支援ご協力をよろしくお願いいたします。将来的には、地元の方々にもヒゼンマユミの樹の持つ素晴らしさ（希少価値を持つこと）を知ってもらい、保全活動に理解を示す人が一人でも多くなればと考えています。

伐採後に積み上げた竹



ヒゼンマユミの若木

錦川流域ネット交流会の活動

錦川流域ネット交流会 代表世話人 白井 啓二

錦川流域ネット交流会は平成14年11月に発足し、現在では流域各地で環境保全活動を行っている46団体で構成され、会員総数は32,000人になりました。

近年、私達の生活はとても便利で快適なものになりましたが、その代償としてかつて豊かだった自然環境は、刻々とその姿を変えつつあります。そして、子供達は、自然の遊び場を奪われ「いのち」を学ぶ接点を失ってしまいました。幸いにも錦川は今も、その美しい流れと豊かな自然を称えています。

交流会は、この美しい自然を守り、時代へ継承していくとともに、錦川を通じて流域住民の方々と自然、いのち、文化を考え、学び、子供達の豊かな感性を育成するため様々な活動を行っています。

主な活動としては、毎年7月の夏休み前に、行政の協力のもと錦川流域各地で一斉清掃を行っており、参加者は現在4,000人になっています。次に、錦帯橋の架け替えで解体された古材を森に返し、錦川の各支流の「源流の碑」として建立する活動を行っています。この活動は、15年より開始し錦川本流、宇佐川、二鹿川、本谷川、根笠川、生見川、木谷川と継続して行っています。

また、国の天然記念物のオオサンショウウオは、山口県では錦川水系の宇佐川にしか生息しておらず、最近では流下個体が下流の錦川本流でも確認されています。それを守るために錦川オオサンショウウオの会が発足し、保護活動を行っており、24年9月には錦町で「第9回日本オオサンショウウオ全国大会」が開催されました。

その他、寂地山のカタクリや節分草の保護活動なども行っており、その活動が認められ、24年6月には環境保全環境大臣表彰を、25年2月には地域づくり総務大臣表彰をいただきました。今後の活動の励みになります。



重要なささゆりの保護活動

渋川を良くする会 安永 芳江

長野山緑地公園は周南市鹿野上の標高1,015mの高地にあり、自然豊かで風景も素晴らしい所です。絶滅危惧種やささゆり、いわかがみなど珍しい植物がたくさん自生していますが、心ない登山者もいるので、これらの保護活動が必要になっています。

貴重な自生植物を保護するとともに、更に増殖し、豊かな自然を次世代の人々に繋いでいくため、「渋川を良くする会」(渋川地域関係者で構成)では、公園管理者の長野山生改連の皆さんを中心に、毎年夏休みに多くの子ども達と一緒に、自然の大切さを学ぶ体験学習を兼ねて、植物の種類の看板立てなどを行っています。こうした活動の成果もあり、少しずつですが、ささゆりが増えています。

都市部に住む皆さんにも活動に参加していただき、自然がくれる安らぎや癒やしなどを満喫してもらいたいと思います。

ささゆりの開花は例年6月20日から7月5日頃までで、ブナホタルは7月20日頃から10日間くらい笹の葉の上を幻想的な光を発して飛び交っています。公園内には、地域の食材を使った定食等が食べられる食堂や宿泊施設もあり、係員がおもてなしの心でお待ちしております。



ご存知ですか？「いきものログ」

山口県自然保護課

環境省生物多様性センターが、平成25年10月に全国の生物多様性データを統合的に共有化して提供する新たなウェブシステム「いきものログ」の運用を開始しました。今回は、この「いきものログ」について紹介したいと思います。行政、研究機関や市民等誰でも利用できるものとなっているので、活用してみたいでしょうか？

どんなことができるの？

「いきものログ」には、自然環境保全基礎調査やモニタリングサイト1000など、生物多様性センターが実施した調査結果のデータが登録されているほか、環境省をはじめとする国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民等が管理する生物多様性データを登録し、共有することができます。これらのデータはデータベースに一元的に管理されており、ウェブサイトで検索し、閲覧ダウンロードすることができます。また、地図表示機能を利用することによって、生物の分布情報をわかりやすく表示することが可能です。生物多様性データの登録は、インターネットに接続可能なパソコンからだけでなく、「いきものログ」専用アプリをスマートフォンにダウンロードすることで、スマートフォンからも簡単に行うことが可能です。

何を目的につくられたの？

「いきものログ」運用の目的の一つは、様々な団体や個人が別々に管理している生物多様性データの共有化です。例えば、都道府県には膨大な生物多様性データが別々に蓄積されていますが、「いきものログ」を活用してこれらの情報を共有化して一元的に運用することにより、各都道府県は都道府県境を越えたシームレスなデータを得ることができ、ひいては全国の生物多様性データを共有化する効果が期待されます。また、「いきものログ」はGBIF（地球規模生物多様性情報機構）でも採用されている標本・観察データの標準交換形式であるダーウィンコアを採用しており、都道府県等が管理するデータを国際的に利活用することもできます。



環境省「いきものログ」ホームページ
(<http://ikilog.biodic.go.jp/>)

グループでも使えます！

「いきものログ」には団体が独自の調査を実施する機能をそなえています。この機能では、団体を登録することで環境省だけでなく、その他の国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民グループ等が、「いきものログ」を利用して独自に団体主催の市民参加型調査を企画し、「いきものログ」の利用者を対象に調査を実施することができるほか、調査の実施者は独自にカスタマイズできる調査ページを「いきものログ」上に設置することができます。また、調査により収集されたデータは実施者が調査報告として「いきものログ」上でとりまとめ、一般に公開することができます。

発行元：(公財) 山口県ひとつくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

